

東京都立大島公園動物園

事業計画書

申請年月日 令和7年10月6日

団体名	公益財団法人 東京動物園協会	
代表者氏名	理事長 杉崎 智恵子	
所在地	東京都台東区池之端2-9-7 池之端日殖ビル7階	
電話番号	03-3828-2143 (代)	
メールアドレス		
担当者名	所属: 総務部運営企画課	氏名:

※この書式のほかに事業計画書の概要版を添付すること (A4判2枚程度、様式任意)

目次

I	収支計画書	1
1	収支計画書	1
II	事業計画	2
1	管理運営に関する基本的事項	2
(1)	大島公園動物園の管理における基本理念	2
2	人員配置計画等	4
(1)	人員配置計画	4
(2)	組織体制・指揮命令系統と役割分担	5
(3)	人材の確保と職員の技術・能力向上への取組	7
3	動物園業務計画	9
(1)	動物園の管理運営についての方針と具体的な取組	9
(2)	適正な動物飼育と魅力的な展示の実現に関する取組	11
(3)	野生生物保全（自然環境保護）に関する取組	13
(4)	教育普及活動に関する取組	15
4	運営管理計画	17
(1)	質の高いサービスを提供するための具体的な取組	17
(2)	利用者要望の把握方法と管理業務への反映方法	19
(3)	動物園の魅力向上と利用促進を図るための自主事業等の提案	21
(4)	業務効率化への取組と事業活動における環境配慮活動	23
5	施設維持管理計画	24
(1)	適切な維持管理を行うための取組	24
(2)	事故及び自然災害、感染症、動物脱出・疾病発生（鳥インフルエンザなど）等を未然に防ぐための安全対策、発生時の対応	25

I 収支計画書

1 収支計画書

支出計画（5箇年）

単位：千円

年度	令和 8	令和 9	令和 10	令和 11	令和 12	合計
支出	153,900	153,900	153,900	153,900	153,900	769,500

物販収支計画（5箇年）

単位：千円

年度	令和 8	令和 9	令和 10	令和 11	令和 12	合計
収入	50	50	50	50	50	250
支出	40	40	40	40	40	200
収支	10	10	10	10	10	50

II 事業計画

1 管理運営に関する基本的事項

(1) 大島公園動物園の管理における基本理念

ア. 大島公園動物園の管理運営における基本理念

東京動物園協会（以下「当協会」という。）は昭和23年の設立以来、「動物園事業の発展振興」ならびに「人と動物の共存への貢献」の使命のもと、東京都（以下「都」という。）と一体となって各種動物園事業を意欲的に推進してきました。平成18年からは指定管理者として建設局所管の4園（恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園のこと。以下「建設局4園」という。）の管理運営、平成25年には大島公園動物園の飼育展示業務を受託し、建設局4園と大島公園動物園（以下「都立動物園5園」という。）のさらなる発展振興を担っています。

このたび指定管理者として大島公園動物園の管理運営を担うにあたり、都の「第2次都立動物園マスター プラン」及び「東京の自然公園ビジョン」、その他上位計画の実現のため、当協会は次の3つの基本理念に基づき、5つの取組を推進します。

3つの基本理念

1 楽しみながら学べる動物園の実現 一誰もが生き物の魅力を楽しみながら学べる豊かな場を提供する

2 伊豆大島の地域振興に貢献 一多様な主体と連携・協力しながら、島の振興・活性化に貢献する

3 東京の島々の生き物を次世代に継承 一島しょ部の様々な希少種を保全し、生物多様性の大切さを伝える

5つの取組

1 生き物の魅力や生態を「伝える」

動物の生き生きとした姿を通じて野生生物の魅力を伝え、生態や生息環境への関心を高めるとともに、来園者の心を動かす展示づくりを目指します。



2 誰もが「楽しみ、学ぶ」

あらゆる人が「安全、安心、快適」に過ごすことのできるアクセシビリティの高い空間づくりを推進するとともに、展示と園内外の自然を活用し、誰もが楽しみながら学べる場を提供します。



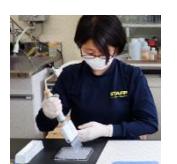
3 観光拠点として魅力を「高める」

島の主要な観光拠点の一つとして、魅力の向上を図りながら戦略的なマーケティングや広報を展開し、伊豆大島の賑わい創出や、地域の活性化に貢献します。



4 生き物を「まもり、つなぐ」

飼育下繁殖、調査・研究、普及啓発などの多角的なアプローチを通して、伊豆諸島や小笠原諸島の希少種をはじめとする様々な野生生物を保全するとともに、次世代に引き継ぐことに貢献します。



5 他の都立動物園や地域の様々な主体と連携・協力して「ともに創る」

建設局4園一体の管理運営を通して培ってきた動物園事業に関する組織基盤を活かすとともに、地元住民・自治体や周辺施設、地域の事業者等と連携し、より良い大島公園動物園の実現に向けた協働・共創を推進します。

イ. 当協会の強みを活かした管理運営

当協会の強みを活かした管理運営

当協会は、建設局4園一体の管理運営を通して様々な技術・経験・ノウハウ・ネットワークを継承・発展させるとともに、それらを支える人材の育成に努めてきました。3つの基本理念の実現に向け、今後は大島公園動物園を加えた5園一体で当協会の強みを活かした管理運営を行い、都立動物園5園のさらなる発展に貢献します。

5つの取組		発揮される当協会の強み
1	生き物の魅力や生態を「 <u>伝える</u> 」	<ul style="list-style-type: none">○生物の分類群ごとの専門的知識や技術を有する豊富な人材○展示・デザイン・施設更新に関する知識経験、ノウハウ○世界中の動物園・水族館、関係機関等とのネットワーク
2	誰もが「 <u>楽しみ、学ぶ</u> 」	<ul style="list-style-type: none">○教育普及センターを中心とした、多彩な教育普及活動を展開するための豊富な知見、学校団体等との連携体制○多様な人々の豊かな動物園体験に寄り添う接遇力○来園者の安全・安心・快適を実現する維持管理力
3	観光拠点として魅力を「 <u>高める</u> 」	<ul style="list-style-type: none">○専門部署を中心とした戦略的なマーケティング機能○公式サイトや各種SNSを効果的に活用した広報機能
4	生き物を「 <u>まもり、つなぐ</u> 」	<ul style="list-style-type: none">○長い経験により培った飼育・繁殖技術、生物工学技術○野生生物保全センターを中心とした組織的な保全推進体制○国、大学等の外部機関と連携した研究体制
5	他の都立動物園や地域の様々な主体と連携・協力して「 <u>ともに創る</u> 」	<ul style="list-style-type: none">○動物園事業運営に関する強固な組織基盤○地域の多様な主体と連携・協力してきた経験、ノウハウ○基金事業等様々な連携が展開できる公益法人の制度的特性

ウ. 社会的責任についての考え方

都に代わって公の施設の管理運営を担う指定管理者として、法令や条例等を遵守することはもちろんのこと、職員一人ひとりが常に公平・公正な観点に立ち、高い倫理観と規律・責任をもって業務を遂行し、社会の要請に応えていきます。また、「政策連携団体」の一員として、都の事業・施策に積極的に連携・協力し、持続可能な未来への歩みを加速させ、当協会の社会的責任を果たします。

① 障がい者に対する社会的障壁の除去及び合理的な配慮

大島公園動物園を訪れるあらゆる人が障がいの有無によって分け隔てられることのないよう、合理的な配慮を通じて大島公園動物園におけるアクセシビリティの一層の向上を図ります。

② 事業運営に係る環境負荷の低減

令和4年度に策定した「地球環境保全行動戦略」に沿って、生物多様性保全への貢献、環境課題への対応や組織強化の観点等から掲げた4つの戦略のもと、実効性のある取組を組織的に推進していきます。

③ 危機管理体制の構築

様々なリスクへの対策について、理事長をトップとする危機管理委員会を設置し、社会環境の変化に柔軟に対応しながら「想定外を許さない」危機管理を徹底します。

④ コンプライアンスとガバナンスの徹底

透明で健全なガバナンスのもと、関係法令や条例等を遵守するとともに、職員一人ひとりが規律と責任をもって業務を遂行し、都民や利用者に信頼される組織運営を実践します。

2 人員配置計画等

(1) 人員配置計画

《様式 6－2》

	役職	担当業務内容（具体的に）	能力、資格、実務経験年数等	雇用形態				一週間の勤務時間	備考
				常勤	非常勤	委託	その他（具体的に）		
配置人員	大島公園動物園係長	動物飼育展示・管理事務	都立動物園・水族園の管理・運営等の経験 5年以上	○		—		38h45m	
	大島公園動物園係	動物飼育展示・教育普及		○		—		38h45m	
	大島公園動物園係	動物飼育展示・教育普及		○		—		38h45m	
	大島公園動物園係	動物飼育展示・教育普及		○		—		38h45m	
	大島公園動物園係	動物飼育展示・教育普及		○		—		38h45m	
	大島公園動物園係	動物飼育展示・教育普及		○		—		38h45m	
	大島公園動物園係	動物飼育展示・教育普及		○		—		38h45m	
	大島公園動物園係	動物飼育展示・教育普及		○		—		38h45m	
	大島公園動物園係	動物診療等		○		—		38h45m	
	大島公園動物園係	動物診療等		○		—		38h45m	
	大島公園動物園係	事務・物品管理		○		—		38h45m	

※職員一人ごとに記入してください。

※役職については、公園を管理運営する上で必要と思われる役職（所長、警備員等）を記入してください。

※能力、資格、実務経験等は実際に配置する予定職員を想定の上で記入してください。

※雇用形態は該当する欄に○をつけてください。その他の場合は具体的な雇用の形態を記入してください。

※「業務委託」については、警備や時間外の施設管理等に必要な人員を委託によって充てる際に記入してください。

※本表とは別に職員のローテーション表を作成し提出してください。（標準1か月分：様式任意）

※行が足りない場合は、追加してください。

(2) 組織体制・指揮命令系統と役割分担

ア. 組織体制の整備

総務部は各園からの意見を取り入れつつ、都立動物園5園の運営の方向を決定します。

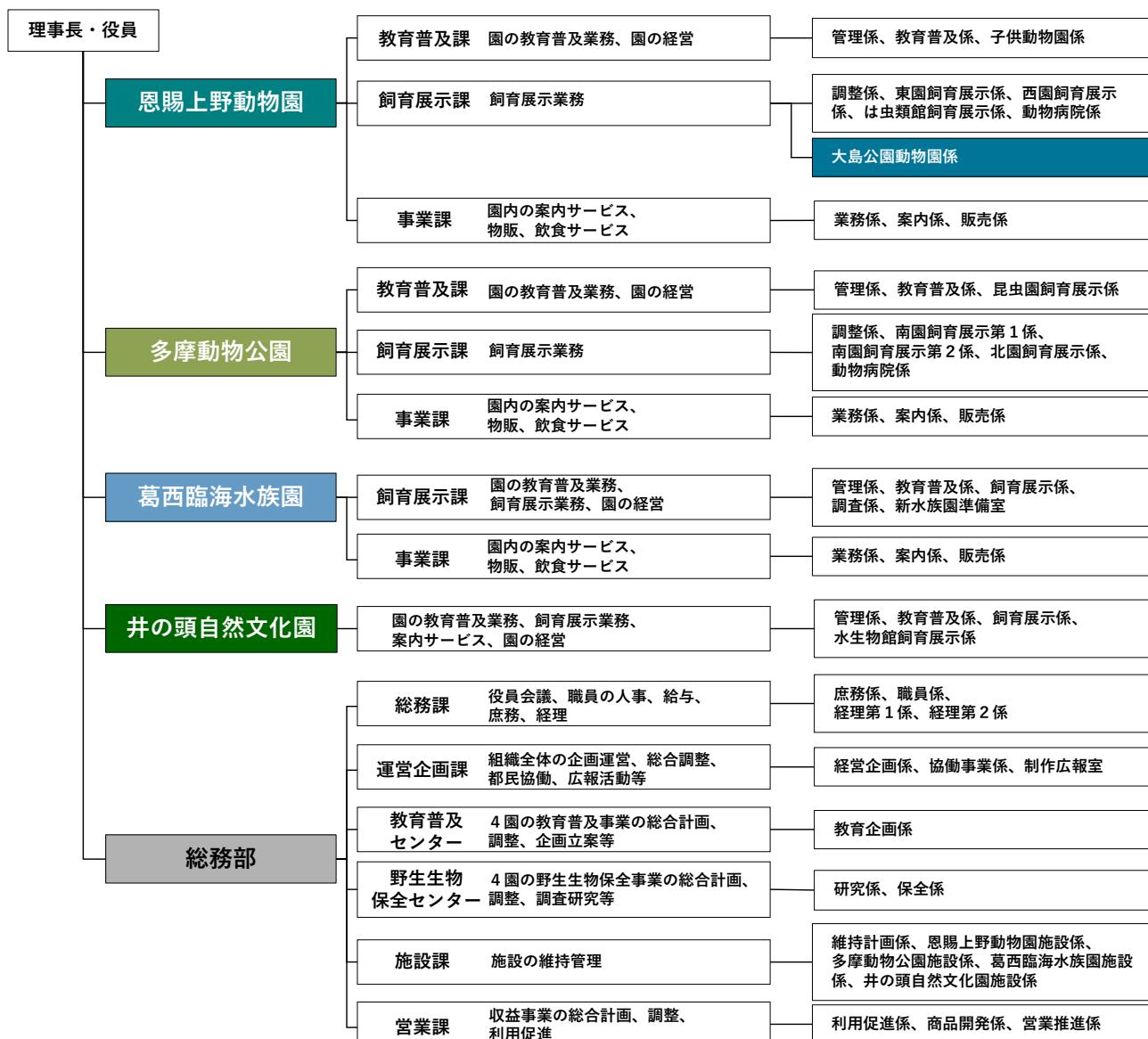
大島公園動物園を含む各園は、それぞれの個性を發揮するとともに、5園が一体となって経営資源の効果的・効率的な活用を図り、動物園・水族園事業を推進します。

このため、次の3つの視点に立ち、必要に応じて柔軟に組織の見直し・強化を図り、常に新たな課題に適切かつ迅速に対応できる組織体制を実現します。

1. 技術と知見の確実な継承とチームワークで最大の効果を発揮する職場づくり
2. 都立動物園5園一体運営のメリットを十分に発揮できる組織づくり
3. 都立動物園5園の使命を十分に果たせる体制の実現

イ. 都立動物園5園及び総務部の情報連携体制の構築

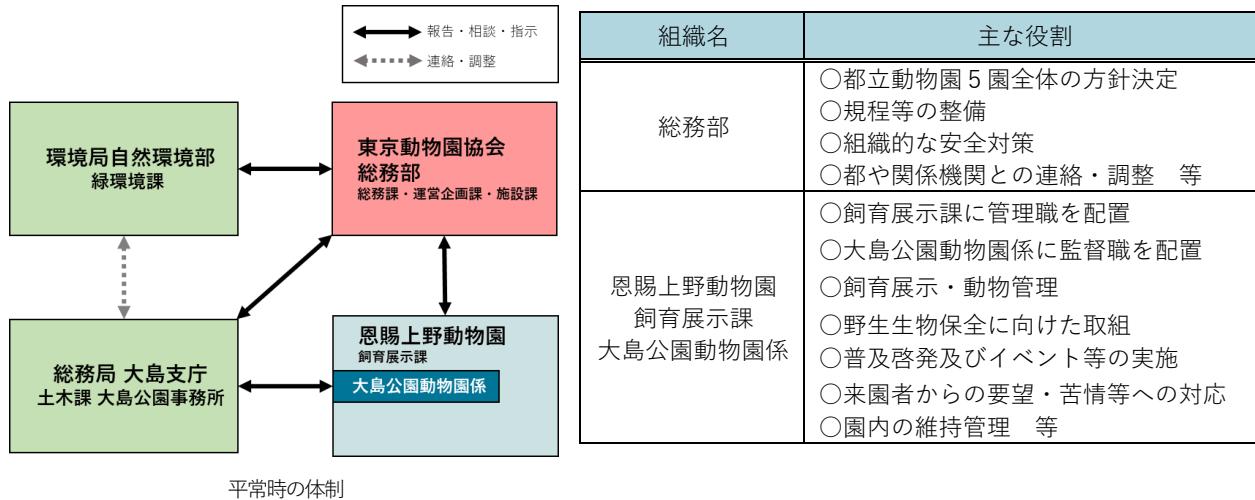
各園の事業運営を円滑に管理し、指揮命令系統・連絡調整機能を発揮するため、5園及び総務部で緊密な情報連携体制を構築し、正確かつ迅速なコミュニケーションを図ります。



ウ. 状況に応じた指揮命令系統と役割分担

① 平常時

都をはじめ地元自治体や消防署・警察署等の関係機関と円滑に連絡・調整できる体制を維持し、緊急時においても適切に対応できる高い水準の管理運営体制を整えます。



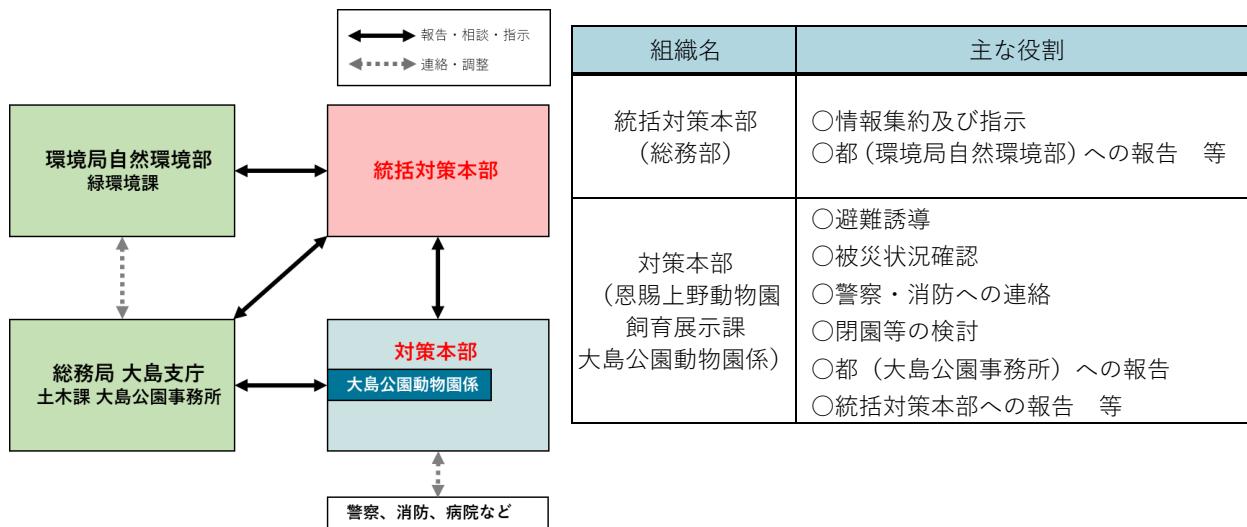
② 夜間

通常は警備員の巡回により異常の発見に努めます。不測の事態が発生した場合には、所定の緊急連絡・参集体制に基づき警備員が即時報告を行い、必要に応じて速やかに担当職員が現地に参集します。飼育動物や地域住民の安全を確保するとともに、都や総務部、関係機関との間で円滑に連絡・調整を行います。

③ 重大な災害発生等の緊急時

建設局4園の危機管理体制を踏まえ、重大な災害発生等の緊急時における体制及び役割分担を下図のとおり想定し、都と調整のうえ運用を開始します。

開園時間中に発災した場合には、園内放送等を通じて来園者に情報を的確に伝え、必要に応じて避難誘導を実施するなど、待機態勢・初動対応・被害報告等について適切に対応していきます。



(3) 人材の確保と職員の技術・能力向上への取組

ア. 人材確保の考え方

大島公園動物園の運営には、飼育展示、教育普及、施設維持管理業務、園内案内業務などいずれも専門的な技術が求められます。採用活動を必要に応じて柔軟に実施して人材を確保し、都立動物園の適切な管理運営を担える良質な人材を育成していきます。

【当協会が求める職員像】

- ◎ 「動物園・水族園の発展振興」「人と動物の共存への貢献」という協会の使命を深く理解し、使命の実現に向けて誠実かつ責任のある行動が取れる人材
- ◎ 未来志向で新たな価値の創造に挑戦するため専門知識や技術を積極的に吸収し、自己成長の成果により都立動物園・水族園の発展に貢献できる人材
- ◎ 幅広い視野を持ち、国内外の様々な主体と連携・協働しながら、利用者の期待に応え、日本の動物園・水族館全体の発展にリーダーシップを發揮できる人材



イ. 人員配置の考え方

業績評価制度における個別面談などを通じ、職員それぞれの職務経験や専門知識、能力・技術等を的確に把握し、人材情報データベースにまとめ、活用することで、適材適所の人材配置を行います。また、幹部候補の育成や職員のモチベーション向上を意識した効果的な人材管理を行い、将来の都立動物園5園を担う人材を計画的に育成していきます。

ウ. 人材育成の考え方

① 基本的な人材育成施策

全ての職員が職務・職級に応じて求められる知識・スキルを確実に習得するとともに、意欲・能力ある職員がチャレンジ・ステップアップできる土台を構築するため、人材育成の3本柱である「Off-JT（職場外研修）」「OJT（職場内研修）」「自己啓発」を効果的に組み合わせた人材育成施策を進めていきます。

【人材育成施策例】

職場外研修	職場内研修	自己啓発
コンプライアンス/人権・同和問題/ハラスメント研修の実施	OJT担当者及びOJT支援者研修の実施による職場でのOJTの支援	オンデマンド動画学習ツールの提供
管理職候補者含む昇任者研修の実施	管理職候補者に対する課題解決型プロジェクトの実施指導及び支援	管理職候補者に対する特別な自己啓発助成制度の実施

② 教育普及・飼育展示研究会

大島公園動物園では多様な生き物を飼育展示及び管理しているため、哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類等、多種多様な飼育技術、知識が求められます。また、教育普及活動についても、通常の来園者対象のガイドから学校教育との連携などバラエティに富んでいます。こうした事業を進めるうえで、様々な生き物を担当する職員が情報を共有し研鑽する場として「教育普及・飼育展示研究会」を定期的に開催し、職員相互のレベルアップを目指します。



③ (公社)日本動物園水族館協会主催の動物園技術者研究会への参加

当協会は、国内の多くの動物園・水族館が加盟する日本動物園水族館協会（以下「JAZA」という。）が主催する動物園技術者研究会やブロック研究会などに積極的に参加し、数多くの研究成果を発表しています。全国の動物園・水族館等との研究成果の情報共有や交流を通じ、新たな情報や知見を得ると同時に、職員の意識向上にもつながっています。今後もこれらの取組を継続することで、各種動物や飼育業務に関する情報共有や、他園館との共通の課題についての検討などを通じ、職員の飼育技術の向上や継承を図っていきます。

④ 海外研修制度～海外の先進事例に基づく動物園・水族園の飼育技術の習得

都立動物園で働く職員が、海外に赴き見聞を広めることは、自己の見識と技術力を高め国際的な交流を広めていくためにきわめて有用なことです。このため、中長期的な視点から都立動物園の発展に役立てるため、職員を海外の実績のある動物園等に派遣し、動物や動物園管理等について調査・実地体験等を行うとともに、派遣先の動物園等との交流を深めます。

【これまでの研修例】

園名	研修先	研修課題
上野	米国・ヒューストン動物園	動物個体情報管理について
葛西	米国・モントレー湾水族館	特設展示の企画運営等について
多摩	豪州・タロンガ動物園	豪州産動物の獣医学的技術について
多摩	米国・スミソニアン国立動物園	保全活動、研究活動、飼育現場の連携について
多摩	ウガンダ・カリンズ森林保護区	野生チンパンジーの調査・生息地域の現状把握
多摩	米国・メトロパーク動物園	ゾウの準間接飼育技術について
葛西	モナコ公国・モナコ海洋博物館	造礁サンゴの展示における「還元型ろ過方式」
上野	米国・サンディエゴ動物園	大型ネコ科動物の繁殖について
多摩	米国・オーデュボン自然研究所博物館	動物園内の昆虫館の飼育展示技術について
葛西	英国・プリマス国立海洋水族館	海洋プラスチック問題のプログラムについて
上野	スウェーデン・スカンセン野外博物館	サービス向上とマーケティングについて
葛西	オランダ・バーガーズ動物園	大型サンゴ水槽の維持管理について

⑤ 動物園技術者の国際会議への参加

世界動物園水族館協会（以下「WAZA」という。）、東南アジア動物園水族館協会、ヨーロッパ動物園水族館協会の各総会や、国際自然保護連合の保全計画専門家グループ、アジア地域動物園教育担当者会議などの国際会議へ積極的に参加し、自然保護やアニマルウェルフェア（動物福祉）など動物園・水族館の今日的な課題についての討論、技術発表を行うことで、国際的視野をもった人材を育成します。



3 動物園業務計画

(1) 動物園の管理運営についての方針と具体的な取組

ア. 大島公園動物園の目指す姿と取組の方向

大島公園動物園は、富士箱根伊豆国立公園及び伊豆大島ジオパーク内の動物園として、島特有の動植物や、歴史・文化・生活とともに歩んできました。「島の動物園」として、観光施設としての機能を発揮してきただけでなく、島民の憩いの場・学びの場として多くの人に親しまれています。

近年、アニマルウェルフェア（動物福祉）への配慮をはじめとして動物園を取り巻く環境は大きく変化しており、より魅力的な展示づくり、生物多様性保全への貢献のほか、高度な飼育繁殖技術の継承・発展も重要な課題となっています。

これらを踏まえ、当協会は大島公園動物園の目指す姿として次の方針を掲げ、管理運営を行います。

目指す姿

○島民の憩いと学びの場であり続けるとともに、
地域の多様な主体と連携・協力して伊豆大島ジオパークの魅力を高め、
東京の島々の生き物を未来へつなぐ動物園



アニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮した適正な飼育管理を基盤に、島民の憩いの場として親しまれる動物園であり続けるとともに、

環境学習プログラムの充実などを通して、学びの場としての役割を高めていきます。

また、伊豆大島の主要な観光拠点として存在感をより一層高め、地域の多様な主体との連携や協力を深めながら、伊豆大島ジオパークのさらなる魅力向上につなげていきます。

さらに、地域の自然環境や生態系をまもることの大切さを来園者に伝えながら、東京の島々の希少種の保全を進め、未来に引き継いでいきます。

1. 大島公園動物園の発展のために

管理運営方針のもと、都立動物園5園一体運営のメリットを最大限活かし、下記の目標を掲げ、事業の発展に取り組んでいきます。

① 楽しみながら学べる動物園の実現

教育普及センターと連携し、誰もが生き物の魅力を楽しみながら学べる豊かな学びの場を提供するため、教育普及に関する新たなプログラム等を年3件開発あるいは導入します。

指標	目標値
教育普及に関する新たなプログラム等の開発あるいは導入	年3件



② 野生生物保全への貢献

大島公園動物園は19種のズーストック種を飼育展示しており、飼育種数総計（60種）に占める割合は3割を超えており（※）。野生生物保全センターと連携し、引き続き生息域外でズーストック種をはじめとする希少種の繁殖に取り組むとともに、多角的なアプローチにより野生生物の保全を推進することとし、5園のズーストック種について年30種の繁殖を目指します。（令和10年度以降は、葛西を除く4園合計で「年間25種」を目指します）（※）種数はいずれも令和7年度時点

指標	目標値
ズーストック種の繁殖数（5園）	年30種



③ 利用促進と賑わいの創出

年間来園者数について、安全で快適な観覧環境の提供を念頭に、魅力あふれる施設運営と戦略的なマーケティング・広報の取組により、島内の地域住民と島外から訪れる旅行者等の利用を促進し、3万人を目指します。

指標	目標値
年間来園者数	3万人



ウ. 地元住民・自治体や周辺施設、地域の事業者・団体等との連携による地域振興

伊豆大島ジオパークの主要な観光拠点として自らの魅力と存在感をより一層高め、地元住民・自治体や周辺施設、地域の事業者・団体等の多様な主体と連携や協力を深めながら、地域振興に取り組んでいきます。

① 園内で開催する取組

ゴールデンウィークや夏休み、椿まつり期間中など、マーケティング調査に基づき適切な時期や手法等を検討のうえ、自主財源を活用した集客イベント「大島公園動物園まつり（仮称）」を開催します。イベントの企画・実行にあたっては、動物園だけでなく島全体の活性化に貢献することを目指し、地域と連携・協力しながら内容の充実を図ります。

イベントでは、飼育係によるスペシャルガイド等の魅力的なプログラムを実施するだけでなく、都立動物園・水族園オリジナル商品の出張販売や建設局4園と連携した出展など、特別感のある催しを展開します。



建設局4園の事例（井の頭自然文化園）
「文化園 春のリスまつり」

② 園外で開催される島内の催し等と連携した取組

地域の様々な主体とコミュニケーションをとりながら、周辺施設や港など、島内で開催される催しや企画等への参画を検討します。対象や時期、手法等は精査をしたうえで調整を図りますが、例えば島内のイベントに大島公園動物園ブースを出展するなど、園の外でも大島公園動物園の魅力を発信する取組を行います。

工. 自然環境の保護及び利用推進や生物多様性の価値を伝える取組

① 自然環境の保護に関する取組（野生生物保全）

当協会は、保全活動を「域内」「研究」「連携」「普及」の4つのカテゴリーに沿ったプロジェクト単位で整理し、組織横断的に野生生物保全を推進しています。

今後は大島公園動物園の立地・環境を活かしながら、都立動物園5園が一体となって各プロジェクトを推進し、野生生物の保全に取り組んでいきます。

② 生物多様性の価値を伝える取組（普及啓発）

地域の様々な関連団体とも連携しながら、園内外の自然（フィールド）を活用した環境学習プログラム等を展開します。

そして、提供するあらゆるプログラム・イベント等が野生生物保全や地球環境保全につながるという視点に立ち、持続可能な社会に向けた行動変容を促すことを目指します。



(2) 適正な動物飼育と魅力的な展示の実現に関する取組

大島公園動物園は島内外からの来園者に憩いや安らぎの場を提供するだけではなく、生物多様性保全の重要性を伝える役割を担っています。当協会は、希少な野生生物をまもり、来園者に様々な動物の魅力や生態、保全の大切さを伝えていくため、アニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮した適正な動物の飼育管理と展示の推進、高度な飼育繁殖技術の継承・発展・発信、来園者が生き生きとした動物を観察し、楽しみ、学ぶことができる魅力ある展示の実現に努めています。

ア. アニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮した適正な飼育管理、展示の推進

① 動物飼育

当協会は、令和7年に「アニマルウェルフェアに配慮した動物飼育展示等に関する基本方針」を定めました。この方針では、アニマルウェルフェアを「個々の動物の身体的及び心理的状態」と定義し、将来にわたって適正な飼育展示等を継続することとしています。

この基本方針に沿って、飼育記録を活用し、飼育動物の習性・性質・個体の状態を常に把握するとともに、動物にとって負担の少ない飼育環境と魅力的な展示の両立を追求します。

また、展示舎及びその周囲は、来園者に快適な観覧環境を提供できるよう適切に管理するほか、動物用飼料の調査・購入・栽培・検査・管理等を適正に行います。



② 動物医療・衛生管理

飼育動物の病気等への予防策を講じるとともに、異常の早期発見に努め、適切な治療を行います。

また、検疫や衛生管理・検査等について適切に行うとともに、動物病院が円滑に機能するよう、医療器具、医薬等を適正に管理します。

近年リスクが高まっている高病原性鳥インフルエンザ等の感染症については、都立動物園5園で最新情報を共有し、職員への教育や対策用品の備蓄を行うなど、有事への備えに努めます。

③ 動物の収集・移動等

これまで培ってきた国内外の動物園・水族館ネットワークを活用し、JAZAや海外の保全繁殖プログラムに協力しながら、ブリーディングローンや相互寄贈などにより展示動物の充実を図り、魅力あふれる展示に取り組みます。



なお、動物の収集や移動にあたっては、法令等を遵守し、各種申請を適切に行います。

第2次都立動物園マスタークリエイティブプランや平成30年に改訂されたズーストック計画の内容を踏まえ、都立動物園5園として主要な展示動物を維持していきます。

④ 計画的かつ効率的な動物管理

飼育動物一覧表の作成や、JAZAの血統登録事務など、各種動物管理事務を適正に行います。

海外からの動物導入

また、当協会は建設局4園の飼育個体データを独自の動物個体管理システムに集約し、必要な情報を閲覧、管理できる仕組みを整備しています。これらシステムの拡充や更新を図りながら、より迅速で効率的な動物個体管理を目指していきます。

イ. 高度な飼育繁殖技術等の継承・発展・発信

① 経験知の着実な継承

当協会は、飼育、繁殖や治療に関する日々の実践や園内の研究会等を通して、長年にわたり蓄積してきた知識・経験や高度な技術の継承を着実に進めてきました。また、都が策定した第2次ズーストック計画に沿って、計画対象である全124種の飼育マニュアルを作成、更新するなど、経験知や暗黙知の可視化にも注力しています。今後10年間は世代交代や人材の流動化がより一層進行することが見込まれますが、引き続き実践的なコミュニケーションや業務の標準化などを通じて、高度な飼育繁殖技術等を着実に次世代へ継承していきます。



飼育マニュアル (一部)

② 高度な飼育繁殖技術等に関する知見の収集・発信

JAZA、WAZA等の会議や研究会など、国内外の動物園・水族館、大学等研究機関との交流を通して、飼育繁殖・動物医療等に関する最新技術・知見の収集や発信を行います。また、収集した知見や新たなテクノロジーを活用し、常に飼育繁殖や動物医療に関する技術向上を心がけ、新たなチャレンジを通じて当協会の強みである技術力をさらに高めていきます。



海外の専門家と協力してアフリカゾウの抜牙処置を実施 (令和6年度多摩)

ウ. 魅力ある展示の実現

① 臨場感あふれる展示の実現

島の自然をそのまま活かした展示や、生き物の行動やくらしを間近に観察できる展示づくりを進め、来園者に野生生物の生態や生息環境を伝えます。また、環境エンリッチメントなど飼育管理の創意工夫を通して、生き物本来の行動や生態を引き出し、来園者が生き生きとした動物を観察し、楽しみ、学ぶことができる展示を実現します。



レッサーパンダ

② 展示動物の理解を深める取組

来園者の興味・関心を喚起し、野生生物を深く理解できるよう、種名ラベルや解説パネルの更新・新設など、積極的に改善を重ねていきます。解説パネル等の更新・新設にあたっては、園の特性に沿った統一感のあるデザインのもと、内容を精査して発信していきます。

③ 都が行う施設整備への貢献

当協会は指定管理者として建設局4園を管理運営してきた中で、展示施設を含む大小様々な施設整備とその後の管理運営に携わってきました。それらの豊富な実績を通じて、飼育展示・教育普及・維持計画・デザイン等の各分野において、施設整備に関する専門知識や技術・ノウハウを蓄積してきたことは当協会の大きな強みの一つです。

これを活かし、新たな施設整備等の計画・設計・施工の各段階を通じて都に積極的な情報提供・提案等を行い、施設を効果的に活用した展示の魅力向上に貢献します。

(3) 野生生物保全（自然環境保護）に関する取組

令和5年3月に閣議決定された「生物多様性国家戦略2023-2030」において、国（環境省）は動物園・水族館等と連携し、生息域内保全の補完として生息域外保全を組み合わせることで、希少種の遺伝的多様性の維持・確保を図るとしています。一方、都は「東京都生物多様性地域戦略」において、「生物多様性の恵みを受け続けるためには、地球規模の生物多様性に配慮することが大都市東京の役目である」とし、第2次都立動物園マスタークリアランスでは「野生動物の多様性、地球環境を守り、次世代に確実に引き継いでいく」としています。

当協会は、これら第2次都立動物園マスタークリアランス等を踏まえ、野生生物の保全を担う場としての役割を果たすため、都立動物園5園が一体となった保全活動を推進していきます。

保全プロジェクトの推進

当協会は、保全活動を「域内」「研究」「連携」「普及」の4つのカテゴリーに沿って整理し、組織横断的に野生生物保全を推進しています。

50件（※）にのぼるプロジェクトの中では、小笠原諸島におけるユウゼンの生態解明調査や、行政・関係団体等と連携・協力し、アカガシラカラスバト・オガサワラカララヒワ・小笠原諸島固有陸産貝類など都内島しょ部の生き物の保全にも取り組んでいます。

今後は大島公園動物園の立地・環境を活かしながら、都立動物園5園が一体となって各プロジェクトを推進し、野生生物の保全に取り組んでいきます。（※）令和7年度時点



当協会の保全活動を4つの
カテゴリーに整理

① 生息域内保全活動

生息域内保全活動とは、その本来の生息地における減少要因を取り除くことで必要な環境を確保し、絶滅を避けようとする活動のことです。建設局4園では、「多摩地域のアカハライモリ生息地の調査及び産卵環境の整備」と、「多摩動物公園内のアズマヒキガエルの産卵状況や交雑状況の調査」の2つのプロジェクトに取り組んでいます。今後、大島公園事務所等と連携し、大島公園動物園としての生息域内保全活動のあり方を検討していきます。



アカハライモリ

プロジェクト事例

域内

- ・多摩地域のアカハライモリ生息状況調査・繁殖環境整備
- ・多摩動物公園及び周辺のアズマヒキガエル生息状況調査・繁殖環境整備

② 飼育等で得られる知見を活用した研究

飼育下で得られる様々なデータを活用し、生息域内では調査の難しい生理・生態に関して研究することは、動物園が担う野生生物保全活動の重要な要素のひとつです。また、科学的知見に基づいた飼育・繁殖に関する技術開発も動物園だからこそ取り組むことのできる研究テーマです。当協会は野生生物保全センターを中心に、大学などの研究機関とも連携しながら、野生生物保全に関する調査・研究を行い、国内外の活動に広く活用できるかたちで公表していきます。

また、生物工学技術を活用し、性別判別、親子判別等の遺伝的検査、繁殖に関するホルモンの測定、飼料の栄養分析、配偶子の凍結保存等、都立動物園5園が取り組む遺伝的多様性を考慮した飼育下繁殖、人工繁殖技術の開発、飼育動物の適切な栄養管理等に貢献していきます。



プロジェクト事例

研究

- ・小笠原諸島におけるユウゼンの生態解明調査
- ・アナカタマイマイの遺伝的多様性の低下が及ぼす影響の調査
- ・葛西海浜公園人工干潟「西なぎさ」の生物相調査
- ・トキ保護増殖事業支援に向けた飼料の検討と開発
- ・チンパンジーの人工授精技術開発

③ 行政・関係団体等との連携

環境省の進める保護増殖事業に対し、希少種の遺伝的多様性を考慮した飼育下繁殖、配偶子保存などの人工繁殖技術の開発等で協力していきます。また、行政以外にも希少鳥類の保全活動に取り組む団体などに対する技術的支援、普及啓発イベントとともに実施する募金活動などを通した保全関係団体への財政的な支援、生息地で行われる環境保全活動への人的支援など、保全に関する国内外の関係団体と連携を強化していきます。

これらの取組の中で、大島公園動物園は島という立地・環境を活かし、現在他園で取り組んでいる希少種を受け入れて健全な個体群維持に協力するなど、都立動物園5園における動物飼育のキャパシティを拡大させると同時に、危険分散機能を担っていきます。



アカガシラカラスバト

プロジェクト事例

連携

- ・環境省保護増殖事業における連携・協力（アカガシラカラスバト、オガサワラカラヒワ、小笠原諸島固有陸産貝類等）
- ・コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS）と連携した保全活動
- ・ブータンにおけるシロハラサギ生息域外保全への技術的支援
- ・コアラの暮らす森再生を目指した域内保全活動の支援

④ 野生生物保全への関心・理解を促す普及啓発

野生生物保全の取組の推進には、その重要性が都民、国民に広く理解され、実際に行動に移してもらうことが重要です。そのために、絶滅の危機に瀕している野生生物の現状と、当協会が実施している野生生物の保全活動について、島内外でのイベント、学校との連携や生息地での講演などのアウトリーチ、シンポジウム開催、外部主催イベントへのパネル展示等における直接的な対話を通じて伝えていきます。



プロジェクト事例

普及

- ・井の頭自然文化園における日本固有の野生生物の保全に関する普及啓発
- ・生息域内と連携したウミガラスの保全に関する普及啓発
- ・「東京めだか」をシンボルとする環境保全に関する普及啓発

(4) 教育普及活動に関する取組

大島公園動物園には様々な目的をもった多様な来園者が訪れます。来園者一人ひとりが、生き物（実物）との心動かされる出会いを入口に、野生生物の生態や生息環境、保全の重要性を学び、理解し、ともに生きる未来のために行動することを目指して、教育普及センターを中心に5園が連携し、多彩な教育普及活動を展開します。性別、年齢、障がいなどに関わらず、だれもが生き物の魅力を楽しみながら学べるよう、さらに多様化する学びのニーズに対応できるよう、これまで蓄積したノウハウを生かした様々な手法で、豊かな学びの場を提供します。

ア. 楽しみながら学べる教育普及活動の強化

① 教育普及プログラムと動物介在教育の充実

来園者が楽しく学べるように、職員による展示前での生き物ガイドや、生き物に間近に接し、学ぶ動物介在教育プログラム（※）を実施します。生き物ガイドでは、生き物の観察を楽しむ視点やエサの時間に合わせた情報発信など、様々な切り口で動物の魅力を伝え、双方向性のある学びを提供します。動物介在教育プログラムはアニマルウェルフェア（動物福祉）に十分に配慮し、利用者の学びを評価しながら効果的な学びにつながるよう努めます。



（※）動物への何らかの働きかけにより特定の行動を観察したり、様々な角度から詳細に観察したりする、動物を介した教育普及活動全般のこと。ふれあいプログラムを含む。

② 展示での学びのサポート強化

解説サイン等展示周辺での情報提供をより魅力的に分かりやすく整えます。



大島公園事務所内のインフォメーションセンターにおいては、標本や解説パネル等を充実させ、島内外の人々に、伊豆大島の貴重な自然や野生生物への理解を深めてもらいます。

また、大島公園動物園は地域の人々が気軽に何度も訪れることができる施設であることから、セルフで楽しめるクイズシートなど、来園者がそれぞれの興味関心に沿って学ぶことができる場を強化し、何度も来ても新たな学びや発見を得られる空間となることを目指します。

イ. 誰も取り残さない教育普及活動の推進

建設局所管4園で取り組んでいる障がいのある子どもとご家族を招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」や、来園が難しい方々のいる特別支援学校、病院、社会福祉施設などを訪問する移動水族館事業等を通して得た知見を活かし、特別な支援が必要な児童・生徒向けの教育普及プログラムの開発やオンライン教材の提供など、学びの場へのアクセシビリティを高める取組を進めています。



職場体験

ウ. 環境学習プログラムの充実と野生生物保全につながる行動変容の促進

① 伊豆大島の生き物や自然に関する環境学習プログラムの充実

富士箱根伊豆国立公園及び伊豆大島ジオパークにある動物園という立地を活かし、地域の様々な関連団体と連携しながら、伊豆大島の特異な自然環境によって育まれた生き物や自然、歴史や文化の魅力を来島者に伝えるとともに、島民にも改めてその価値や魅力を再認識してもらうため、園内外の自然（フィールド）を活用した環境学習プログラム等を展開します。



② 野生生物保全につながる行動変容の促進

「野生生物保全に関する取組」で述べたとおり、野生生物保全を推進するうえで保全への関心・理解を促す普及啓発は重要です。提供するあらゆるプログラム・イベント等が野生生物保全や地球環境保全につながるという視点に立ち、持続可能な社会に向けた一人ひとりの行動を後押しします。ズーストック種をはじめとする伊豆大島の希少な野生生物や地球環境の危機的な現状を伝えるワークショップ等のほか、展示前の生き物ガイド等の定例プログラムや配布物、SNS等も活用し、より多くの人に野生生物保全につながるメッセージを発信していくことで、地球環境保全に貢献します。

エ. 学校教育との連携強化

① 学校団体向け教育普及プログラムの提供

学校教育との連携は、だれも取り残すことなく、すべての児童・生徒に生き物を介した学びの機会を提供する意味でとても重要です。島内の幼稚園・保育園、小中学校、高校との強固な関係を築き、来園する年齢や学年に沿った学校団体向けの教育普及プログラムを提供します。



② 学校教員と連携・協力した学びの充実

教科書のデジタル化やオンライン教材の利用など、大きく変化する学びのニーズの的確な把握に努めたうえで、教員と連携・協力した出張授業の実施や、オンラインによる教員向けセミナーの開催（建設局4園と合同）など、学校教育との結びつきをより一層強める取組を進めていきます。



また、都立動物園・水族園のもつ豊富な資料を活用してオンライン教材の充実を図り、来園しない場合でも学校での学習をサポートします。

オ. 5園連携による幅広い教育普及活動の展開

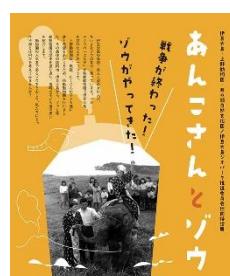
教育普及センターが中心となり、教育普及プログラムの評価手法やオンライン技術の活用、動物介在教育の在り方など教育普及活動を推進するうえでの課題を都立動物園5園で共有し、解決策を検討します。作業部会や研修会、勉強会などの機会を定期的に設け、5園が蓄積してきた技術や経験を活かし、教育普及活動を推進します。

また、5園であることの強みを発揮した連携プログラムや企画展を実施するとともに、「教員のための博物館の日」や学会・研究会等でのブース出展等、関係機関と連携し、5園の教育普及活動の取組をより多くの方へ伝えていきます。

【これまでの事例】

伊豆大島・井の頭自然文化園・恩賜上野動物園 巡回特設展
「あんこさんとゾウ——戦争が終わった！ゾウがやってきた！」

期間：令和4年7月～令和5年2月
主催：公益財団法人東京動物園協会
共催：伊豆大島ジオパーク推進委員会
後援：東京都大島支庁



ポスター



展示（伊豆大島・大島町開発総合センター）

4 運営管理計画

(1) 質の高いサービスを提供するための具体的な取組

動物園の最大の魅力は、生き物を直接観察し、命を感じるからこそ得られる、驚きや感動に満ちた体験にあります。その魅力を最大限に引き出すためには、誰もが利用しやすい快適な観覧環境づくりは不可欠です。バリアフリーな空間づくりの推進やインフォメーションセンターの機能強化に取り組み、多様な利用者や利用目的に応じた質の高いサービスを提供します。

また、動物園の魅力をより多くの方々に伝えるためには、利用促進の取組も欠かせません。利用動向の調査・分析を継続して実施するとともに、効果的な広告宣伝活動や魅力的なイベントの展開等を通して、動物園が持続的に沢山の人から利用される仕組みをつくります。

ア. 多様な利用者や利用目的に応じた質の高いサービスの提供

① 誰もが利用しやすい快適な環境づくり

大島公園動物園をあらゆる人が快適に過ごし楽しめる施設とするため、バリアフリーな空間づくりを推進します。大島公園事務所と連携しながら、園内の案内サインや動物情報の掲示において多言語対応のさらなる拡充を行うほか、公式ホームページにおける多言語対応やアクセシビリティ対応を強化し、情報のバリアフリー化にも取り組みます。

また、来園者の目線に立って一人ひとりのお客様を温かくお迎えするため、飼育担当を含む職員は苦情対応や言葉遣い等に関する基礎的な接遇研修、障がい者に対する社会的障壁の除去及び合理的な配慮の具体例を学ぶ研修などを定期的に受講し、組織をあげて接遇力の不断の向上に取り組みます。



② インフォメーションセンターのサービス機能強化

現在、インフォメーションセンターでは、は虫類や昆虫などの生体・標本展示、展示動物に関する研究の紹介などを行っているほか、大島公園動物園や大島公園の利用案内、車椅子やベビーカーの貸し出し、伊豆大島の観光案内などの各種サービスを来園者に提供しています。

引き続き、インフォメーションセンターを拠点として多様な利用者、利用目的に応じた案内接遇とサービス提供を行います。



さらに、島内の集客施設や季節に応じた見どころ、おすすめの飲食店舗等の観光情報を紹介することにも力を入れ、島内の回遊を促進することで地域観光の活性化に貢献していきます。

イ. マーケティング・広報による利用促進

① マーケティング調査

来園者の居住地域や年齢・来園動機等についてのアンケート調査や、ウェブ等を活用したマーケット調査を実施するなど、継続的に大島公園動物園への顕在的・潜在的なニーズの把握と分析を行います。

これらを広告・宣伝活動やキャンペーン等を企画立案する際のエビデンスデータとして活用し、利用促進と来園者満足度の向上につなげていきます。

② 公式サイトを基盤とした戦略的な広報

公式サイト「東京ズーネット」に大島公園動物園を加え、内容の充実と利便性の向上を図ります。また、Instagram 等の SNS を活用するなど、情報発信力を強化します。

そのほか、地図情報にイベントや展示情報、動物の生態などの関連情報を紐づけてシームレスに閲覧できるデジタルマップを制作するなど、豊富なコンテンツの提供を通して、大島公園動物園の魅力を余すことなく伝えます。



デジタルマップ
(井の頭自然文化園)

③ 様々な手法を活用した効果的な広告・宣伝

SNS・Web 広告等を活用した旅行前・旅行中の観光客へのアプローチや、地域の人々に向けて大島公園動物園の旬な情報を提供するなど、効果的な広告・宣伝を積極的に行います。

そのほか、建設局 4 園で開催するイベントや、本土の商業施設、展示会等において大島公園動物園や伊豆大島の魅力を紹介する展示を行うなど、目的やターゲットごとに最適な手法を選択したうえで、来園者・利用者との新たな接点を積極的につくります。



Instagram 広告
(多摩動物公園)

④ 魅力的なコンテンツによる来園者誘致

建設局 4 園では、冬の閑散期における利用促進策としてデジタルスタンプラリーやフォトコンテストを実施し、来園者満足度を向上させながら各園の回遊性を高め、利用を促進してきました。

これまで培ってきたノウハウや各種の調査等を通して得られたデータなどを利活用するとともに、建設局 4 園や、地元自治体、周辺施設、地域の事業者・団体等との連携・協力を模索し、特別企画や期間限定のイベントなど魅力あふれるコンテンツを提供することで来園者の誘致を図ります。



都立動物園・水族園に行こう！
2025 デジタルクイズラリー
(建設局4園)

(2) 利用者要望の把握方法と管理業務への反映方法

利用者から寄せられるご意見やご要望、苦情、問い合わせ等の様々な「声」をより良い動物園づくりへ向けた「改善」の機会として真摯に受け止め、公平・誠実な対応を迅速に実施することを徹底し、利用者満足度の向上と利用促進を図ります。

ア. ご意見・ご要望等を管理運営の改善につなげる仕組み

ご意見・ご要望等の把握

- ご意見やご要望等を把握するため、インフォメーションセンター窓口や電話で直接お話を伺うとともに、公式サイト上のオンラインフォームや園内に設置するご意見箱を活用し、利用者の声に積極的に耳を傾ける機会を設けます。
- 来園者を対象としたアンケート等の調査を実施するなど、多様な手段を用いて積極的に利用者要望等を把握します。



窓口・電話	ご意見箱	オンライン受付	利用者満足度調査
			

多様なニーズへの対応

- 利用者からいただいたご意見やご要望等にしっかり耳を傾けるとともに、迅速な対応を実施します。即座に回答を差し上げることができない場合も、対応策の検討を最優先事項とし、誠実な対応を徹底します。
- 同じ案件でも利用者によってご意見が異なる場合や、大島公園動物園だけでは解決できない要望をいただいた場合でも誠実な対応を心がけ、利用者の理解を得られるよう努めます。場合によっては、大島公園動物園としての運営方針について理解いただくよう説明を実施し、必要に応じて公正な判断に基づく毅然とした対応を行います。
- この他、大島公園動物園の利用の方法や生き物に関連する様々な問い合わせに対しては、内容に応じて適切かつ正確な情報を伝えします。
- 昨今社会問題となっている「カスタマー・ハラスメント」に対しては、「公益財団法人東京動物園協会職員に関するカスタマー・ハラスメント防止基本方針」等に沿って、適切に対応してまいります。

意見要望等の管理と共有、管理運営への反映

- 寄せられたご意見・ご要望、苦情等は、「苦情要望データベース」として蓄積し、都立動物園5園及び総務部の関係部署で情報を共有していきます。また、清掃員など職員以外の園内従事者とも連携を密にし、情報共有を図るとともに、必要に応じて関係者で対応を検討します。
- 検討の結果をふまえ、対応方針を施設保守や園内サービス、観覧環境や展示の改善など、運営全般の改善へとつなげます。

- 利用者アンケート調査等、定期的な満足度調査を行い、要望や苦情等への対応として実施した改善事項の効果検証も図ります。これらの施策を通じて大島公園動物園運営の改善を積極的に図り、改善内容を評価して、さらなる改善へとつなげるサイクルを構築しています。
- 寄せられたご意見・ご要望、苦情等は、都が指定管理者に対して実施する履行確認や、事業報告書等を通じて適切に報告しますが、緊急性の高いものは随時報告を実施します。また、指定管理者のみでは対応が困難な案件に関しては、都と連携し、適切な対応方法を検討します。
- なお、ご意見・ご要望等に含まれる個人情報は、当協会の「個人情報の保護に関する規程」に則り、適切に取り扱います。

1. 建設局4園において「ご意見・ご要望等」を管理運営に反映させた事例

事例1 暑熱対策・サービスの向上	
ご意見・ご要望等	取組の内容
恩賜上野動物園パンダ舎付近にもテントをつくるなどして暑さをしのげる対策を考えてほしい	<p>待機列にテントとミスト、パンダ舎観覧通路に冷風機を設置し、暑熱対策を充実させるとともに、来園者サービスの向上を図りました</p> 

事例2 安全・安心な観覧環境の提供	
ご意見・ご要望等	取組の内容
多摩動物公園昆虫館のホタル展示エリアが真っ暗で、行き止まりの壁が見えないので、何か工夫してほしい	<p>該当箇所に展示誘導サインを設置し、サインに弱い光を照射して突き当りであることを認識しやすくなることで、さらに安全・安心な観覧環境を提供しました</p> 

事例3 暑熱対策・サービスの向上・地球環境保全の推進	
ご意見・ご要望等	取組の内容
恩賜上野動物園の園内に、マイボトルで気軽に給水できる場所を増やしてほしい	<p>既存の東園無料休憩所内のウォーターサーバーに加えて、西園無料休憩所内に新たにウォーターサーバーを1台設置し、暑熱対策や来園者サービスの向上と、環境保全の取組を推進しました</p> 

(3) 動物園の魅力向上と利用促進を図るための自主事業等の提案

当協会ではこれまで、建設局4園において、園内の便益施設で得られた収益を活用し、自主事業として「東京動物園友の会」の運営や、雑誌「どうぶつと動物園」発行などの出版事業を推進し、動物園の魅力向上に努めてきました。また、基金事業などにも取り組み、寄付金や協賛金を広く募るとともに、収益事業会計から資金繰りも実施し、野生生物保全活動を行う個人・団体の支援や、飼育動物の展示環境の改善など、多岐にわたる公益目的事業に活用しています。こうした経験を活かし、大島公園動物園の魅力をさらに高めるために、多様な自主事業を積極的に展開していきます。

ア. 東京動物園協会のネットワークを活用した魅力発信

① 魅力的な商品の開発・販売

当協会は、建設局4園のレストランやファストフード店、ギフトショップを運営するとともに、オンラインショップや外部の商業施設への出店等、幅広い収益事業を展開しています。

これまで、商品の企画・開発を担う専門部署を中心に、飼育展示部門・教育普及部門とも連携し、リアリティを追求した教育普及効果の高いオリジナル商品など、園の魅力向上に貢献する商品群を多数開発してきました。今後、大島公園動物園の展示動物をモチーフにした商品や、伊豆大島の特徴と関連性の高い商品などを開発し、当協会の販売チャネルにおいて取り扱うことを検討します。



オリジナル商品を開発した事例
「ほんとの大きさパンダの仔」シリーズ ECサイト（東京ズーショップ）

② 東京の島々のプロモーションにつながる取組

建設局4園には年間で600万人以上の来園者が訪れる事から、4園の店舗で大島公園動物園や伊豆大島の魅力をアピールし、潜在的な来園（来島）需要を喚起する取組は非常に効果的です。

これまで、葛西臨海水族園レストランにおいて伊豆大島の漁港で水揚げされた海産物を用いたメニューを提供するなど、地産地消に配慮するとともに伊豆大島や伊豆諸島の特色を紹介する取組を行ってきました。今後は都立動物園5園一体運営の強みを活かして、建設局4園の店舗等で東京の島々のプロモーションにつながる多彩な取組を推進していきます。



大島産の食材を用いたメニューの提供
(葛西臨海水族園 レストランシーウインド)

イ. 動物と動物園に関する資料の収集・保存・活用

国内外で発行される動物や動物園に関する書籍や雑誌、園内で作成する各種資料等を収集・保管するとともに、飼育動物の生態やイベント等を写真や動画として撮影して動物園事業の記録に努めます。写真や動画資料は教育普及事業や広報活動、職員の研究発表や外部貸出等、多様な目的に利活用し、動物園事業の理解促進に貢献していきます。



ウ. 大島公園動物園及び動物園への理解促進と支援者の育成

「東京動物園友の会」は、動物園・水族館への関心を高めるとともに、広く自然科学への興味を育てることを目的として、当協会が昭和27年に運営を開始した会員組織です。都立動物園・水族園や野生生物への関心を高めるために2種類の雑誌を発行するとともに、会員を対象とした野外観察会や施設見学会、専門家による講演会等の教育普及事業を実施しており、過去には大島公園動物園を含む「伊豆大島の自然と文化をたずねる見学会」も実施しています。こうした活動を通じて、大島公園動物園をはじめとする都立動物園5園の魅力や認知度の向上に貢献しています。また、今後は指定管理者として大島公園動物園を管理運営しながら、園を取り巻く島内外の人々のニーズ等の把握に努め、大島公園動物園を支援する取組の拡充を検討していきます。



左：一般会員向け「どうぶつと動物園」(年4冊)

右：ジュニア会員向け「ZOO! どーぶつえんしんぶん」(年2冊)

エ. 東京動物園協会野生生物保全基金による保全活動の支援

当協会は、設立趣旨のひとつである「人と動物の共存への貢献」を一層進めるために、「東京動物園協会野生生物保全基金」を平成23年に設置し、「動物園・水族館の発展振興に資するとともに、野生生物保全活動を積極的かつ継続的におこなう活動」の支援を目的として、助成金交付事業を実施しています。「一般部門」、「中高生部門」、「東京動物園協会保全パートナー部門」の3部門による助成対象活動を募集し、将来の野生生物保全を担う次世代の育成に努めるとともに、都立動物園5園が様々な外部団体と連携して進める保全活動に取り組んでいます（例：オガサワラカラヒワの飼育繁殖技術の習得及び域内調査活動）。これらの基金制度と助成活動を通じて、都立動物園5園における保全活動を積極的に推進していきます。



恩賜上野動物園で孵化した
オガサワラカラヒワ

(4) 業務効率化への取組と事業活動における環境配慮活動

指定管理者として利用者の多様なニーズに応えるとともに質の高いサービスの提供を図り、効果的かつ効率的な管理運営を実現するため、都立動物園5園一体運営のメリットを最大限に生かした業務効率化を図ります。また、野生生物の保全を推進する動物園として、自らの事業運営にかかる環境負荷をできる限り低減させるため、組織戦略に基づく積極的な行動を推進していきます。

ア. 都立動物園5園一体運営による業務の効率化

① 事務業務の集約化

契約や支払い事務など、他の都立動物園・水族館と共に事務処理等を総務部の専門部署に集約し、東京動物園協会の組織力で効率的に業務を行います。

② 5園一体の採用・人材育成

「人材の確保と職員の技術・能力向上への取組」で述べた基本的な考え方に基づき、将来の都立動物園5園を担う職員の採用や人材の育成を計画的・効率的に行います。

③ AIなど新たなテクノロジー等を活用した業務効率化・DXの推進

当協会は法人向けの生成AIを導入しており、課題の分析や資料の作成などに活用しています。そのほか、来園者にはデジタル技術を活用したオンラインプログラムを提供するなど、内部事務と来園者サービスの両面においてDXの考え方を取り入れた改善に力を入れてきました。引き続き新たなテクノロジーや仕組みを積極的に都立動物園5園の運営に取り入れ、質の高いサービスを提供しながら業務の効率化を図ります。

イ. 地球環境保全行動戦略の推進

生物多様性を守り、かけがえのない地球環境を次世代に継承していくため、当協会は令和4年度に都立動物園・水族館における地球環境保全に向けた率先行動の指針として、「地球環境保全行動戦略」を策定しました。

「地球のことばは、私のこと。未来のことばは、今のこと。」をスローガンとして、生物多様性保全への貢献、環境課題への対応や組織強化の観点等から掲げた4つの戦略のもと、実効性のある取組を組織的に推進しています。

今後は大島公園動物園を含む5園が一体となり、施設運営にかかる環境負荷の低減を図るだけでなく、事業全般にわたる積極的な行動を通じて、地球環境保全の意義を広く都民等に伝えていきます。

戦略1	生物多様性保全への貢献
戦略2	気候危機への対応
戦略3	循環型社会への寄与
戦略4	地球環境保全に貢献する組織基盤の強化

戦略1 生物多様性保全への貢献			
飼育展示における取組		教育普及における取組	
 ズーストック種の繁殖		 野生生物の現状を伝える教育普及活動	
38種	/30種以上(R6計画)		
戦略2 気候危機への対応	戦略3 循環型社会への寄与	戦略4 組織基盤の強化	
 再生可能エネルギー100%電力への切替(R5基準)	 環境に配慮した製品の使用(割り箸・カトラリーなど)	 国内最大級の環境展示会に初出展(R6エコプロ)	

地球環境保全行動戦略の体系

これまでの主な成果(建設局4園)

5 施設維持管理計画

(1) 適切な維持管理を行うための取組

当協会は都が定める「都立公園の維持管理技術指針」に則り、安全・安心で快適な観覧環境を確保するとともに、良好な都市環境に寄与するため、動物舎や各種設備をはじめ、園路・広場、便益施設、樹木や花壇等、4園の多岐にわたる施設の維持管理を的確に進めてきました。大島公園動物園の維持管理にあたっても、これまで培ってきた知識、技術、経験を最大限に活かし、適切に実施してまいります。

ア. 施設の適時的確な維持・保全

動物園は、野生動物を飼育展示する動物舎など特殊な建築物で構成され、それらのライフラインとして電気・機械設備が多く設置されています。これらのなかには、設置後年数の経過した施設や、各種の点検と入念な手入れが必要な施設等も存在します。

当協会では直営による日常点検の他、専門業者による保守点検を定期的に行うことで、迅速性と正確性をもって各施設の状況を把握していきます。不具合があれば直営や業者修繕により、大事に至る前の改善を図るなど、効率的な維持・保全に努めています。なお、指定管理の枠を超える事態にあたっては、都と十分に協議調整し、役割分担の確認を行うなど、適切な維持・保全を進めていきます。

イ. 即時対応可能で、設備等の機能と品質を確保する維持管理体制

来園者に清潔で快適な環境を提供できるよう園内美化を推進するとともに、動物園施設を適切に維持管理していくため、施設や設備に求められる機能水準や品質を確保し、緊急事態にも迅速に対応できる体制を構築して維持管理に臨みます。

体制の構築にあたっては、直営による作業と外部への委託を適切に組み合せて行うこととし、各種の設備機器類については専門業者と保守委託契約を結び、万一の事態にも即応できる体制を整えます。

なお、これら委託業務は現場職員による確認に加え、総務部でも写真等をもとに完了確認を行う等、適正な履行を確保します。

委託の例

- 空調機・冷蔵設備等保守委託
- ボイラー設備等保守委託
- 自動ドア設備等保守委託
- 園地清掃委託
- 園内建物清掃委託

ウ. 動物舎等の施設更新

動物園では、多様な動物の飼育展示施設があります。展示する種ごとに、必要な施設のあり方はそれぞれ異なっており、加えて、展示動物の予想外の行動による不具合なども起こり得ます。

当協会は、これまで蓄積した経験等をもとに、望ましい動物舎等の構造や設計時に注意すべきポイント等をまとめたマニュアルを作成・更新しています。都が行う施設の更新や改修にあたっては、これらの知見を活かした協議調整が可能です。動物にストレスを与えたり、動物に起因する施設不具合が生じたりすることを防ぎ、適切な飼育展示環境の整備に貢献します。

エ. 地球環境に配慮した施設維持管理

「業務効率化への取組と事業活動における環境配慮活動」で述べたとおり、当協会は建設局4園の施設維持管理において省エネルギー化や剪定枝の再資源化等の取組を進めてきました。これまでの経験を活かし、大島公園動物園にとって最適な方法を模索しながら、地球環境に配慮した維持管理を行います。

オ. その他特殊な事案等への対応

近年、猛威を振るう高病原性鳥インフルエンザなどの感染症やナラ枯れのように、現時点では想定しきれない新たな特殊事案が発生した場合においても、都と連携しながら適切に対応していきます。

また、通常の修繕だけでは施設自体を維持しきれない事案も予想されます。大島公園事務所と日ごろから円滑な意思疎通に努め、都と連携・調整しながら積極的に対応していきます。

(2) 事故及び自然災害、感染症、動物脱出・疾病発生（鳥インフルエンザなど）等を未然に防ぐための安全対策、発生時の対応

動物園は数多くの野生生物、来園者、職員の大切な「いのち」を預かる現場です。当協会では理事長をトップとする「危機管理委員会」のもと、あらゆるリスクに備えて万全の体制を構築し、事故防止の徹底や安全対策を適切に実施し、危機管理対策の強化を図ります。

【事故や被害が発生した際の対応】

気象災害のように事前に予見可能なものは、発生前の対策を入念に行なうことが重要です。総務部及び各園で行なう対策会議等を通じ、確実に対策を実行します。事故や被害が発生した場合には、災害種類別の対策計画や各種マニュアル、事前の訓練等に基づいた対応を冷静沈着に実行します。来園者の安全・安心を最優先としつつ、動物及び職員の安全も確保できるよう、各種対策計画の充実を図ります。

ア. 自然災害・テロ攻撃への取組（自然災害・テロ対策部会）

大規模自然災害を想定した①初動対応計画、②本部運営計画、③事業継続計画（BCP）に基づき、毎年訓練を実施するとともに、飼育動物の飼料の備蓄等を適切に行ないます。また、激甚化する台風、ゲリラ豪雨などの気象災害についても、待機態勢、初動対応、被害報告のために必要な事項を定めた各種計画に基づき適切に対応していきます。特に近年社会課題となっている夏季の暑さに対しては、動物及び来園者の暑熱緩和に向けた対策及び職員等の熱中症予防対策を総合的に進めます。さらに、噴火への備えについて、当協会としての計画を策定し、予期せぬ事態にも対応できる現場での対応力向上に努めます。



葛西臨海公園と連携した訓練
(葛西臨海水族園)

【災害発生時の対応計画】



イ. 動物事故・感染症への取組（動物事故・感染症対策部会）

① 動物に関する事故の防止

■ 安全管理意識の向上

動物の飼育作業は使用する道具、重機などを含めて危険を伴うものであることを認識し、安全管理意識をすべての職層、職員に徹底するため、飼育展示研究会等での情報共有及び注意喚起や現場研修を通じ、安全管理意識の一層の向上を図ります。

■ 情報共有の徹底・連絡体制の確保

飼育作業を開始する前に、ミーティング等により情報共有を図り、所定の作業手順に関する認識の誤りや漏れがないか確認します。また、ヒヤリハットを含めた事故事例を都立動物園5園で共有することにより、各部署の安全対策に活かし、再発防止に取り組むほか、万が一、動物脱出等の事故が発生した際には所定の連絡体制に基づき迅速に情報を伝達します。

■ ヒューマンエラー対策

「ヒューマンエラーをゼロにすることはできない」との大前提に立ち、日々動物舎の施錠の確認を徹底するとともに、定期的に作業手順の見直しを実施し、ソフト・ハードの両面から事故防止を徹底します。

② 感染症等への対応

■ 高病原性鳥インフルエンザへの対応

高病原性鳥インフルエンザ対応マニュアルに沿って、年間を通じ適切に対応します。発生状況に応じて段階的に定められた対応手順に従い、関係機関と緊密な連絡態勢のもと、入園や各動物舎・ケージへの出入時には消毒を徹底するなどの措置を講じます。園内で発生したときは、速やかに危機管理委員会を立ち上げ、統括対策本部及び園対策本部を設置し、蔓延防止及び事態の収束に向けて対応します。



高病原性鳥インフルエンザ対応訓練
(恩賜上野動物園)

■ その他の感染症等への対応

口蹄疫や豚熱（CSF）などのその他感染症について、国内外の発生状況などの最新情報を収集し、動物事故・感染症対策部会等を通じて情報共有、検討を進め、的確かつ迅速な感染防止対策を実施します。

また、新たな感染症の発生・侵入に対しては、これまでの感染症への対応を参考に、速やかに防疫措置及び感染状況に合わせた柔軟な対応を行います。

ウ. 情報セキュリティへの取組（情報セキュリティ対策部会）

情報セキュリティ対策部会において、情報セキュリティに関する重要な事項の審議・決定、情報セキュリティ対策の推進・統制、個人情報保護等の総合的な対策を推進します。

情報セキュリティリスクへの対応には技術的・人的・組織的な多角的アプローチが必要となることから、ファイアウォールやウィルス対策ソフトなどの基本的な防御対策に加え、ゼロトラストセキュリティを取り入れたシステムの導入などの技術的な対策を行います。また、情報漏洩事故の多くはヒューマンエラーに起因することから、誤操作を防ぐ機能の活用などの技術的な対策に加え、職層別研修の実施やサイバーアンシデント対応訓練などを繰り返し実施し、職員一人ひとりの意識向上を図ります。さらに、外部の専門機関によるセキュリティ監査等も実施し、協会全体の情報セキュリティ対策水準を常に維持向上していきます。

エ. 事故防止への取組（事故防止対策部会）

① 来園者に関する事故の防止

誰もが安全・安心に過ごせるよう、動物舎等の観覧施設、園路・広場、樹木等を適切に維持管理するとともに、点検・確認を着実に実施します。不具合が見つかれば、早急に修理等を行うとともに、修理に時間を要する場合は、応急措置やお客様への注意喚起を行います。

また、万が一の事故発生時や、お客様の体調不良、負傷等に迅速に対応できるよう、大島公園事務所との連携確認、現場保全復旧の手順確認、職員の救急救命技能の向上等、平常時から必要な準備に努めます。

② 業務等における事故（労災等）の防止

労災等の職務に起因する事故を未然に防止する対策を推進します。

具体的には、作業手順書や各種マニュアルの整備を進めるとともに、職場研修等の安全教育を定期的に実施します。加えて、過去の労働災害事例及びヒヤリハット事例を蓄積し、当協会全体で共有することにより、職員等の安全意識を高め、事故の防止に努めます。